

神根中だより

～自他共に認め合い学び合う
夢と笑顔と潤いのある学校～
令和8年2月号

学校教育目標
主体的に学び合い
心豊かで たくましい生徒



川口市立神根^{かみね}中学校

〒333-0823 埼玉県川口市石神1515-1
電話 (048) 296-7025

だれかが隣にいただけで

校長 寺田 和成

厳しい寒さが続いています。暦の上ではもうすぐ立春を迎えます。そのような中、先月の14日から16日の3日間、1年生の「夢わーく」（職場体験活動）が行われました。この3日間の貴重な体験を通して、生徒たちは仕事の大変さや社会の厳しさなどを味わいながらも、仕事のやりがいや社会に貢献する楽しさ、人の役に立つ喜びなど、学校では学べない大切なことをたくさん学んできました。年の初めのお忙しい時期に、本校生徒の体験活動を快く引き受けてくださいました49もの事業所等の皆様、本当にありがとうございました。心より御礼と感謝を申し上げます。

さて、3学期は短い期間ながら、今年度を振り返り、1年間のまとめをしていくとともに、より良い神根中学校を目指し、来年度へ向けてしっかりと準備をしていく大切な学期となります。昨年12月22日に開催された「第20回川口市いじめゼロサミット」では、これからのいじめのない学校づくりに向けた取組について、市内の各小中学校の児童会長・生徒会長等が一堂に集まり、意見交流を行いました。今回は「なぜ、いじめはなくなる？」というテーマのもと、市内の小中学校が小グループに分かれて協議し、各グループでいじめ予防の取組について考えました。このサミットを経て、今後、生徒会を中心にいじめ根絶へ向けた決意や取組を発信することなどを通して、一人一人が自分事として捉え、生徒自らが主体となってより良い神根中学校を実現していくことが大切です。いじめを「しない」「させない」「許さない」「見逃さない」という絶対的な共通認識のもと、多様性を認め合い、これまで以上に温かい人間関係を築いていってほしいと願っています。

朝日新聞デジタルのサイトに、「いじめと君」という特集ページがあり、たくさんの著名人からのメッセージを読むことができます。今回のサミットで「なぜ、いじめはなくなる？」というテーマを目にしたとき、その特集ページにあった1つのメッセージをふと思い出しました。現在、東京海洋大学客員教授で魚類学者、タレントでもある“さかなクン”のメッセージです。

「広い海へ出てみよう」

(朝日新聞デジタル「いじめと君」さかなクン著)

中1のとき、吹奏楽部で一緒だった友人に、だれも口をきかなくなったときがありました。いばっていた先輩が3年になったとたん、無視されたこともあり。突然のことで、わけはわかりませんでした。

でも、さかなの世界と似ていました。たとえばメジナは海の中で仲良く群れて泳いでいます。せまい水槽と一緒にいたら、1匹を仲間はずれにして攻撃し始めたのです。けがしてかわいそうで、そのさかなを別の水槽に入れました。すると残ったメジナは別の1匹をいじめ始めました。助け出しても、また次のいじめられっ子が出てきます。いじめっ子を水槽から出しても新たないじめっ子があらわれます。

広い海の中ならこんなことはないのに、小さな世界に閉じこめると、なぜかいじめが始まるのです。同じ場所にすみ、同じエサを食べる、同じ種類同士です。

中学時代のいじめも、小さな部活動でおきました。ぼくは、いじめる子たちに「なんで？」ときけません。でも仲間はずれにされた子と、よくさかなつりに行きました。学校から離れて、海岸で一緒に糸をたれているだけで、その子はほっとした表情になっていました。話をきいてあげたり、励ましたりできなかったけれど、だれかが隣にいただけで安心できたのかもしれない。

ぼくは変わりものですが、大自然のなか、さかなに夢中になっていたらいやなことでも忘れます。大切な友だちができる時期、小さなカゴの中でだれかをいじめたり、悩んでいたとしても楽しい思い出は残りません。外には楽しいことがたくさんあるのもったいないですよ。広い空の下、広い海へ出てみましょう。

メジナの行動がいじめかどうかはわかりませんが、せまい水槽に入れられてストレスのようなものを感じた結果と考えることもできます。もしそうであれば、これは動物全体に共通することなのかもしれません。しかし、我々は理性をもち、善悪の判断ができる人間です。「だれかが隣にいただけで・・・」、こうした言葉の端々に人間としての優しさや温かさがにじみ出ているような感じがします。皆さんはこのメッセージをどう受け止めますか？